

こなん水辺公園ニュース

2012年5月号(通算第15号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

こなん水辺公園は、もう初夏の雰囲気



ヨシが勢いよく伸びてきた。(2012年5月5日)

ゴールデンウィークは終盤に来て、さわやかな日差しが戻ってきました。5日のこなん水辺公園は、青空の下、さわやかな風が吹き、お弁当を持って訪れる家族連れも何組かいました。

お弁当を食べたあと、子ども達が水辺の生き物を捕まえたりして、身近な自然を楽しめる場所として、こなん水辺公園が、だんだんと市民の皆さんに利用されてきているようすが感じられ

ます。

オオヨシキリもやってきて、賑やかな水辺が戻ってきました。ヨシは勢いよく伸びだして、やがて水辺を覆ってしまう勢いです。去年のガマの穂がまだ残っていて、その下から濃い緑の葉が伸びてきています。道端のセイヨウタンポポは、もうほとんど綿毛になって、子ども達が飛ばして遊んでいます。

花ハスも、まだ小さい新しい葉を展開しています。



ハスの芽吹き

田んぼエリアでは、レンゲの花が咲いています。除草剤を撒いていないあぜ道は、いろいろな植物が育っています。

ミニ植物園に看板をつけませんか？

管理学習棟の横にミニ植物園があります。いくつかの水鉢に、河北潟産のめずらしい水生植物を植えています。

アサザやトチカガミ、ヒツジグサな

ど、河北潟ではあまり見る事ができなくなった植物をここでは見る事ができます。

この植物園に看板をつけたいと以前から考えており、亚克力板と丸太を薄く切ったものは集めてありますが、なかなか作業を始められていません。一緒に作業をしていただける方を募集しています。ご興味のある方で手伝ってもいいよという方がおられましたら、土日のいずれかに自然解説員までお知らせください。お待ちしております。



アサザ



ヘラオモダカ

身近に見られる三人の「姫」のお話し

ヒメオドリコソウ



漢字で書くと「姫踊子草」になります。姿を見ていると、広がるスカートを身に付けた踊り子に見えませんか。

道端で頻繁に見られる花で、昆虫も好んで蜜を集めに来ます。残念ながら、外来種です。ヨーロッパが原産。

在来種で「オドリコソウ」があります。同じ属に含まれますが、大きさが明らかに違います。このヒメオドリコソウは、明治時代中期に日本に入ってきたと言われています。北アメリカや東アジアにも気化しているようです。

開花時期は、暖かければいつでも花を咲かせます。北陸でも、春先から11月頃まで花を付けています。

ヒメジョオン



漢字で書くと、「姫女苑」になります。

北アメリカ原産で、国内では150年前には雑草として生えていたと言われています。

よく「ヒメジオン」と呼ばれることがあります。ヒメシオン（姫紫苑）と言う植物は他にありません。

ヒメジョオンはハルジオンに似ています。花の時期は、ハルジオンの方が先に咲きます。茎（くき）を折ると、ハルジオンは空洞です。葉の付き方は、ハルジオンは茎を巻いています。

「姫は、女で、中身が詰まり、葉っぱは茎を巻いてない」と覚えましょう。

ヒメガマ 3種共、5月5日撮影



こちらは立派な在来種です。漢字では、「姫蒲」となります。

河北潟では、ヒメガマが一番多く見られます。ガマは水に適した植物で、水深70センチ位でも根を張ります。地下茎が発達していて、毎年同じ場所で芽を出します。しかし、穂と呼ばれる種から芽吹くことはあまり無く、小さな野池で消滅すると再生は困難です。

古くから日本人に親しまれ、華道に利用され、「和の世界」を提供してくれます。ガマの中でもヒメガマが一番色が薄く、細身で気品を感じます。

発行 2012年5月7日

制作 こなん水辺公園解説員グループ (NPO 法人河北潟湖沼研究所内)

連絡先 〒929-0342 津幡町北中条ナ9-9 河北潟湖沼研究所 tel.076-288-5803

昆虫にもヒメ



ヒメアメンボ

こなん水辺公園の水面に最も普通に見られるアメンボです。ヨシ原の中などより、少し開けた水面を好みます。

昆虫にも名前に「ヒメ」のつく種類は多く、こなん水辺公園には、このほかにヒメゲンゴロウ、ヒメミズカマキリなどの水生昆虫が確認されています。

こなん水辺公園には、ヒメアメンボより少し大きいアメンボもよく見られ、種名をアメンボ（ナミアメンボ）といいます。

アメンボを観察していると、水面に落ちた小さな虫を、水面を滑って移動し、素早く捕らえるのを観察できます。それぞれのアメンボは自分の陣地（縄張り）をもっています。

(制作 高橋 久・河合雄二)